

ブロッコリーに発生するブラウンビーズはなぜ問題か 野菜花き試験場

長野県では、標高差を利用した産地間リレーにより、5月から11月までブロッコリーが連続生産されています。ブロッコリーは、生育適温が18～20℃と比較的冷涼な気候を好む野菜であることから、夏季のブロッコリー生産は冷涼な気候の地域のみに限定されており、夏でも冷涼な気象条件にある北海道と長野県が夏場の主要な産地となっています。

長野県のブロッコリーの栽培では、病虫害の被害以上に、生理障害の発生に伴う品質低下が大きな問題となっています。生理障害とは、植物体の生育状態、畑の肥料養分、土壌水分、気温などの要因によって、植物体に生理的な悪影響が現れる現象をいいます。ブロッコリーでは、食用部位である花蕾に発生する生理障害を、特に“異常花蕾”と呼んでいます。異常花蕾にはいくつかの症状がありますが、長野県での生産量が多い夏季に発生が増加する症状として、「不整形花蕾」、「キャッツアイ」、「ブラウンビーズ（死花）」の3種類があります。

中でもブラウンビーズは花蕾表面にある花芽が黄変あるいは褐変したもので、いわゆる蕾の老化のような現象です。ブラウンビーズが発生してもブロッコリーの食味は低下しませんが、生産現場では大きな問題になっています。ブロッコリーは鮮やかな緑色が好まれるため、たとえ僅かな発生であっても古いものと誤解され、鮮度が重視されるブロッコリーでは不良品として扱われるなど、商品性を著しく低下させる原因となっています。

なお、発生原因としては、高温・乾燥や強日照によるストレスが考えられていますが、原因は明らかになっていません。現在、野菜花き試験場ではこれらの生理障害の詳細な発生原因の解明と、回避対策技術の開発に取り組んでいます。



不整形花蕾



キャッツアイ



ブラウンビーズ

担当者	中村 憲太郎	電話番号	0263-52-1148
-----	--------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)